

なんでもインフォ 2019.4



「 キャッシュレスの波が来た 」（乗りましょう）

●世界では進んでいるキャッシュレス決済

みなさんはキャッシュレス決済、どのくらい活用されていますか？駅、コンビニ、ネットショッピング、様々なシーンと手段で普及してきました。IT 技術は日進月歩ですね。

さて、キャッシュレス決済を活用できると、どんなメリットがあるでしょうか？世界の情勢にも目を向けながら紹介していきます。

世界のキャッシュレス決済普及率と施策事例

国名	2016年の比率	10年での伸び	キャッシュレス化の施策例
韓国	96.4 %	34.6%	キャッシュレス利用時の税還付制度の充実
イギリス	68.7 %	30.8%	ロンドン五輪を契機とした政府主導普及促進
オーストラリア	59.1 %	9.9%	国産決済サービス対応、手数料規制
シンガポール	58.8 %	15.3%	早期取り組み、政府による施策推進中
カナダ	56.4 %	7.4%	ペニー硬貨や小切手の廃止
スウェーデン	51.5 %	9.6%	政府による脱現金へ法的手当て
アメリカ	46.0 %	12.3%	VISA,MasterCardが中心となり促進
フランス	40.0 %	10.9%	現金支払い上限の設定、フィー規制
インド	35.1 %	16.8%	国産デビットカード開発、普及促進
日本	19.8 %	6.2%	交通系は浸透してきたが現金志向が強い
ドイツ	15.6 %	5.2%	現金志向が強く進展せず
中国	60.0 %	参考値なし	北京五輪を契機とした政府主導の普及促進

参考文献：経済産業省（キャッシュレス化に向けた国内外の現状認識）

表を見ると日本は 20%程度と周回遅れくらいの差がついています。世界中のみんながスマホを持つ時代になりました。多様な事をスマホひとつで解決できたほうが便利ですよね。将来はそういう世界になっていくのだな…という感覚では、このまま置いていかれるかもしれません。

●成功に必要なもののひとつ「チャレンジ」

日本があらゆる分野で世界に置いていかれる理由は、主に少子高齢化と英語が話せないこと、新しいことにチャレンジする意欲やエネルギーが無いことが指摘されています。

また、キャッシュレスが遅れている国の事情には大きく 2 つの特徴があるそうです。まず、バンキングシステムや銀行口座が普及していない発展途上国、もうひとつは、ほとんどの国民が銀行口座を有している先進国です。

ただし、発展途上国や新興国でも携帯電話とモバイルマネーの普及率が高い国もあり、給料も毎日の買い物もキャッシュレス。主要都市にある ATM まで出かけなくて済み、交通費や手数料それに係る時間を削減でき、とても合理的ですね。対応力も柔軟で普及速度にも目を見張るものがあります。

●日本が抱える課題（人手不足、維持コスト）

日本政府が積極的なキャッシュレス化を推進する目的は、主に消費者の利便性向上と、少子高齢化による人手不足への対応、ＩＴ・データ利活用による事業者の生産性向上や地域活性化といった狙いがあるとのこと。

経済産業省の発表によると、現金決済インフラの直接的な社会コストに年間で 1 兆円（貨幣製造、店頭設備投資、ATM 事業、現金関連業務やレジ締めなどの人件費など）、そのうち人件費だけ抜粋すると 6,000 億円も！これらの問題も解決させたいのですね。

たとえば、飲食店での試行例ではスマホで事前注文とセルフレジ決済ができるとすると、20～35%の省人効果があると報告されています。（主に接客と会計対応の効果が大きい）また、タクシーでもネットで配車予約して車内でスマホ決済できたら現金授受に関しても防犯や簡素化につながりますね。会社経理でも小口現金を廃止したところ曖昧な経費の削減や効率化に繋がったという事例報告も見かけます。

○参考文献（具体例が詳しく解説されていますので御覧ください）

一般社団法人キャッシュレス推進協議会
キャッシュレス・ロードマップ 2019　(2019 年 4 月)

●現金が一番！は再考の必要あり

では、逆にキャッシュレスが進まないとどうなるでしょうか？さまざまな課題、人手不足、現金決済の維持コスト、訪日外国人の決済が不便、現金決済のレジ待ち時間、ＡＴＭの行列、お金の管理が面倒と様々あり、世界中に普及してきている昨今の時代変化をみると「現金が一番！」という考え方は、デメリットのほうが目立つようになってきたと言えます。

●日本政府の目標（2025 年までに決済率 40%！!）

政府は 2020 年オリンピック、2025 年大阪万博などのイベントをきっかけに、訪日外国人旅行者数を 4,000 万人、8 兆円規模の消費市場を生み出そうと、2025 年までにキャッシュレス決済率目標 40%、さらに主要な商業施設、観光スポットにおいてクレジットカード決済対応と決済端末の IC 対応を 100%にしよう！というものです。

みんなが現金を使わないこと、即ち各種カード（クレジット・デビット・IC）決済や電子マネーQR コード、モバイル決済の普及は日本社会へ貢献できることに繋がるのですね。

●国から消費者へのメリット施策

経済産業省の施策で 2019 年 10 月には消費税率引き上げに伴い「キャッシュレス・消費者還元事業」が 9 ヶ月間実施されます。これはキャッシュレス決済をした消費者に対して 5%の還元がなされ、事業者にも導入費用や決済手数料において支援メニューが用意されています。

●キャッシュレス推進協議会

産官学で構成される「キャッシュレス推進協議会」には全国 25 自治体（15 道府県 10 市）が加盟しており、岩手県も参加していました！そのなかの 5 県の全域で総務省のモデル事業を実施するとのこと。(岩手県では 2019 年 8 月から 6 ヶ月間予定）なお、岩手県のキャッシュレス決済比率は 10.59%で全国第 42 位でした。成長過程に注目です！応援・参加しましょう！(参考文献:順位は 2014 年度の商業統計)

●キャッシュレス決済を敬遠する理由（損している）

・キャッシュレス＝クレジットカードという認識が 9 割
・クレジットカードは「使いすぎの不安」がある
・面倒くさい、なんだか怖い、現金が一番という志向が強い

●キャッシュレス決済を利用し始めた人（得している）

・各種カードや決済アプリ利用によるポイント還元
・割引クーポンやキャンペーン、利用者への優待価格がある
・インターネットショッピングで簡単に決済できる
・現金がなくても買い物できる、お金の使い道が見える

●リスクやデメリット

・カード情報の紛失や盗難の心配がある
・後発サービスはまだ対応店舗が少ない
・お金の使い方が筒抜けになる



●試してみたい方へ

クレジットカードが不安な方は、給与口座や貯蓄口座から切り離して、決済用のネットバンク口座とデビットカードを取得するのがおすすめです。あちこちで使えるプリペイドカード感覚で利用できます。（ただし、補償条件は留意してください。）　慣れてきたら複数の決済方法を準備しておくと、金銭面や時間効率も効果が高まるでしょう。この波を機に、新しい価値観へ目を向けてチャレンジしてみませんか？

（発行）株式会社 昭和土木設計　（岩手県紫波郡矢巾町流通センター南4 丁目1 番23 号　Tel 019-638-6834　Fax 019-638-6389）
弊社は道路・河川・橋梁等の計画・設計、BIM/CIM、i-Construction、GIS、IT ソリューション等の業務を行っております。
”なんでもインフォ“のバックナンバーは　https://showacd.co.jp　をご覧ください。
作成担当：事業推進室